
ペンギンマン

かがアン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ペンギンマン

【Nコード】

N0327B

【作者名】

かがアン

【あらすじ】

青いスーツに身を包み、地球の平和を守る予定の正義のヒーロー・
・らしい。まあ皆さんでこの奇妙な青い人を温かい目で見守って
あげてください。

第0話 謎のヒーロー???

南極の中心部・・・

「こちら本部。日本支部、日本支部、応答願います。」
しかし返答はない。

「くっそう・・・一体何があつたんだ・・・」

ウィーン 自動ドアが開き入ってきたのは全身が青い服、可愛いペンギンの顔、くちばしの間から覗くニヒルな顔。

そう、彼がペンギンマン

「どうかしました？」

「日本支部と連絡がつかない・・・何か事件が起きたのかもしれない。もしかして、SKHの仕業かも・・・」

「何？」と敏感に反応したのはペンギンマン

「すぐに日本へ行って事件の詳細を調べてきます。」

「ヨロシク頼む。日本までの切符代は机の上に転送しておくから。」

「ハイ！」

そうしてペンギンマンは南極から電車を乗り継ぎ・・・って無理だ。そこはシカトでなんとか日本についたペンギンマン。

くときよー町

「ココが日本の中枢か・・・」

駅前立つペンギンマン。

「よっし！俺が日本を救ってやる！」

ピーピー「その君、少しいいかな？」

ペンギンマンに近づく謎の二人組み。

黒い警察のような帽子をかぶり、青い警察のような服をきて、黒い警察のような無線機をつけて、

黒い警察のようなズボンはいて、黒い警察のような拳銃を腰につけている。

ペンギンマンの優れた知能で即座に逃げるシュミレーションを50通り考えて・・・

「その交番に来てもらえるかな？」

ガツシリとつかまつたペンギンマン。

そして交番へ引きずられていく・・・

頑張れペンギンマン。

日本を救えペンギンマン。

つづく？

第0話 謎のヒーロー???（後書き）

更新はかなり遅いので・・・気に入った方で続きが見たい人は「はよ続きかかんか」とお叱りメールでもしてくださいm（〃〃）
m

第1話 到着しましたけど・・・

「ふう」といきよって怖い町だなあ。この超スペシャルスーパーウルトラハイパーミラクル通気性抜群温度調節ダイヤル付き全身防護スーツをコス・・・コウブレ？コスプレ？何かしらんが間違えて、この日本と言うクソあつ・・・凄く熱い場所で脱げと！なんとか、コゴエールブレス（注1）で逃げれたものの・・・危なかった。・・・あつそうだ！日本支部！どうして連絡がつかないんだ・・・確か場所は・・・」

（注1 コゴエールブレスとは、ペンギンマンの技の一つである。）

（日本支部の前）

「普通の民家じゃないか・・・」
「やあ」

「わあ・・・これが世界中できわめて広く飼われている食肉目の小型動物で元来、ネズミを捕獲する目的で人に飼われ始めたといわれ、広義には、「ネコ（ネコ類）」とはネコ科動物 Felidae の総称であり。“ネコ”という単独の語がこの意味で使われることはあまりないが、Felissilvestricatus という亜種レベルの「ネコ」を指すことを強調したいときは、特に「イエネコ」ということもある生物か・・・ん？

あれは・・・柴犬、日本古来の犬種。オスは体高 38 - 41 cm、メスは 35 - 38 cm 程度の小型犬種。国の天然記念物に指定された7つの日本犬種・・・まあいとするか。とにかくここだ。よし！入るぞ。」

（日本支部内）

内部に広がっていたのは機械。家の壁という壁に張り巡らされているケーブルやコード。

どこを見ても民家とは到底思えない。外とのギャップがありすぎる。
「ここが・・・」

「やあやあいらっしやい。キミがペンギンマン君かね？本部から連絡がきとるよ。」

応答願いますと。何度も何度も。ちゃんと聞こえとるっちゅーの。
ワシはそこまで歳じゃないわい！」

三秒の間

「なら応答せんかいつ！」

「おお！それもそうだなあ！」

今、明らかに理解した日本支部の支部長「本只米牧ほんただまいまき 留笠大悟とめりゅうだいご
朗ろう」通称「マキト」無駄に通称がかっこいい。

「取りあえずジャスミン茶でも飲まんか？本部にはわしから連絡しとくから」

とそのときだった『（びーびー）SKH出現、SKH出現』警告ブザーがなった。

「大変だペンギンマンくん。SHKがこの地区にも出現したらしい！戦闘の準備をたのむ！」

「今から向かいます！場所を教えてください。」

「わからん。自分で探せ。」

「・・・・・・（怒）」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0327b/>

ペンギンマン

2010年10月11日20時20分発行